

保険診療下における年齢別胚移植基準の検討：低グレード胚の妊娠率と生産率の解析

¹阪本なつき、¹佐藤学、¹中岡義晴、²森本義晴

¹医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

²医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

2022 年 4 月より生殖補助医療が保険適応となり、胚移植の回数が制限される中、特に 40 歳以上では 3 回までとされているため、移植する胚の選択基準が重要となる。当院では通常、Gardner 分類で 3BC 以上の胚を凍結・移植しているが、低グレード胚（特に TE-C 胚）の妊娠率および生産率について年齢別に検討し、保険診療下で凍結・移植対象とする胚盤胞グレードの適切な選択基準を模索することを目的とした。

【対象と方法】

2019 年 1 月～2023 年 12 月に当院で実施された凍結融解単一胚盤胞移植（PGT 胚を除外）4450 周期を対象とした。妊娠成立は GS 確認と定義した。Day5 および Day6 胚を TE 評価（TE-A、TE-B、TE-C）に基づき 4 群（A 群：Day5・TE-A/TE-B、B 群：Day5・TE-C、C 群：Day6・TE-A/TE-B、D 群：Day6・TE-C）に分類し妊娠率、生産率を比較。また 39 歳以下と 40 歳以上で TE 評価別に比較した。

【結果】

全体の妊娠率は 51.2%、生産率は 38.8%であった。Day5 胚では妊娠率 53.6%、生産率 41.4%、Day6 胚では妊娠率 35.2%、生産率 21.0%であった。A 群と他群間、および B 群と D 群間で有意差が認められた（ $p<0.01$, $p<0.05$ ）。Day6 胚で TE-C の場合、39 歳以下では妊娠率 32.7%、生産率 20.5%、40 歳以上では妊娠率 17.1%、生産率 2.4%であった。40 歳以上の場合は TE-C の場合、Day5 胚であっても妊娠率 27.9%、生産率 8.7%であった。

【結論】

40 歳以上でも TE-C 胚に一定の妊娠率および生産率が確認されたが、Day6 胚では生産率が低かった。本研究結果から、TE-C 胚をすべて凍結対象外とすることは適切とは言えない。ただし、例えば保険診療にて 40 歳以上の場合、低グレード胚盤胞は極力単一ではなく複数で移植することを考慮すべきと考えられた。